

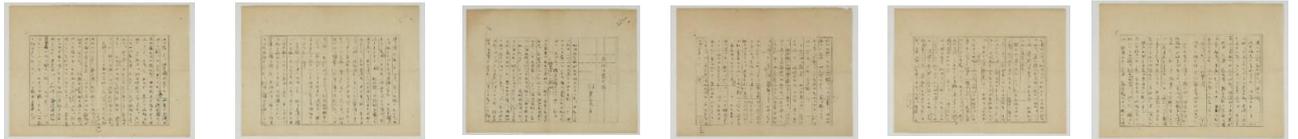
「おのみち林芙美子記念館」のご紹介

おのみち林芙美子顕彰会 副会長（尾道学文庫 代表）山口真一

☆『おのみち林芙美子記念館』では、記念館と林芙美子旧居に、林芙美子の姪林福江氏と夫林緑敏氏から尾道市並びに尾道東高等学校に寄贈された林芙美子の遺品（直筆原稿、書簡、油彩画、着物、愛蔵品、その他）90点以上を常設展示している。

☆おのみち林芙美子記念館の展示は「6つのコーナー」にて分かれています。

◎1つ目が直筆原稿『九州の思ひ出（山口真一個人蔵）』コーナー。林芙美子は明治36年12月31日、門司で父宮田麻太郎、母林キクの子として出生、幼少期を母の郷里桜島古里村で過ごす。その後若松・長崎・佐世保・佐賀唐人町・若松・門司・熊本・鹿児島・直方まで放浪し尾道に辿り着く。その幼年時代の放浪の変遷や貸本屋で探偵小説や怪談物を読むのが大好きだった光景を軽快なタッチで克明に表現している。原稿の最後、『どのような環境も子供にとっては幸せな天地なのである』というフレーズに、訪ねてこられた方々も感銘を覚える。（*北九州市立文学館 林芙美子コーナーに『九州の思ひ出』複製を常設展示）。



◎2つ目が、『尾道第二尋常小学校』コーナー。親子で九州放浪の旅から尾道に辿り着いた林芙美子は尾道第二尋常小学校（現土堂小学校）5年編入、小林正雄先生と出会う。修身国語教師だった小林正雄先生は、林芙美子の文才に気づき、様々な支援を行う。

展示物は3点、

1点目は『尾道第二尋常小学校 卒業記念写真』。

2点目は、千光寺「文学の小径」の『放浪記』碑文の小林正雄先生直筆原案。

「海が見える 海が見えた 五年ぶりにみえる尾道の海はなつかしい・・・」。

3点目は、『放浪記』を長年演じておられた森光子さんの碑文前の記念写真。

初版本『放浪記』と『風琴と魚の町』も常設展示。

◎3つ目が、『尾道市立高等女学校・後県立高等女学校(現尾道東高等学校)』コーナー。

林芙美子の恩師今井篤三郎先生の愛情こもった熱い指導でメキメキと才が開花。

展示物は3点、

1点目は『広島県立尾道高等女学校 修学旅行集合写真』。

2点目は、『広島県立尾道高等女学校 卒業記念集合写真』。

3点目は、『広島県立尾道高等女学校 卒業名簿』。

初版本『放浪記』



初版本『風琴と魚の町』



◎4つ目が、『直筆原稿・初版本』コーナー。

現在6点の直筆原稿を管理、内3点を記念館常設展示。

1点目は、原稿『泣蟲小僧（尾道市所蔵）』と初版本『泣蟲小僧（改造社）』。

2点目は、原稿『ヴィナスの牧歌（尾道市所蔵）』と初版本『ヴィナスの牧歌（照國書店）』。

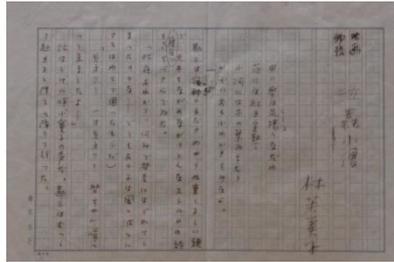
3点目は、『上田秋成』と初版『小説上田秋成（藝術新潮）』。

①直筆原稿『泣蟲小僧』

昭和9年10月

「東京朝日新聞」に連載
した際の直筆原稿です。

（尾道市所蔵）

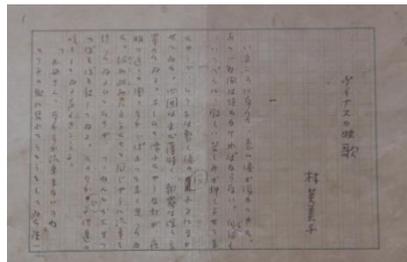


初版本『泣蟲小僧』
（改造社）S10. 2. 20 発行

②直筆原稿

『ヴィナスの牧歌』

（尾道東高所蔵）

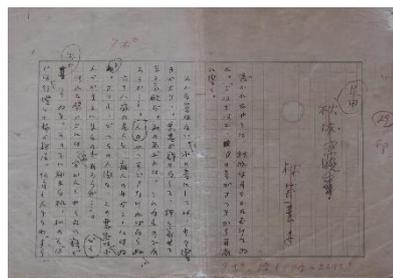


初版本『ヴィナスの牧歌』
（照國書店）S23. 2. 15 発刊

③直筆原稿

『上田秋成』

（尾道東高所蔵）



「芸術新潮三月號 第一卷第三號に掲載
『小説 上田秋成』」S25. 3. 1 発行

★他、林芙美子直筆原稿（尾道東高所蔵）下記3点「おのみち林芙美子顕彰会」で管理。

④直筆原稿『寒椿』S26. 2

⑤直筆原稿『大阪城』S26. 3

⑥直筆原稿『吾亦紅』

◎5つ目が、『書簡・絵画』コーナー。

現在3点の直筆書簡と2点の油彩画を「縦型ガラスケース」に常設展示。

1点目は、『川端康成から林芙美子への書簡（尾道市所蔵）』。

2点目は、『井伏鱒二から林芙美子への書簡（尾道市所蔵）』。

3点目は、『林芙美子から川端康成への書簡（尾道東高所蔵）』。

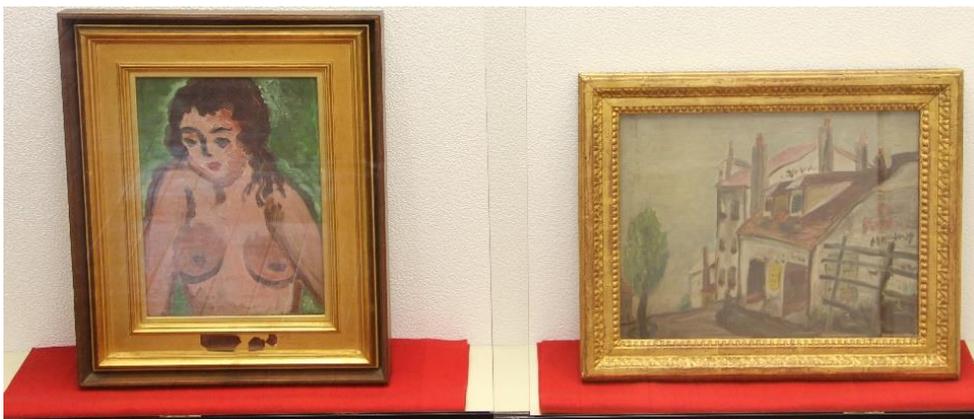


4点目は、油彩画『裸婦 大正15年（尾道東高所蔵）』。

5点目は、油彩画『モンマルトル風景（尾道市所蔵）』。

④油彩画「裸婦(大正15年)」
(尾道東高所蔵)

⑤油彩画「モンマルトル風景」
(尾道市所蔵)



絵描きになりたいと思うほど絵が好きだった林芙美子の貴重な「油彩画」。

◎6つ目が、林芙美子が晩年『愛用した着物』コーナー。

- ①『帯』
- ②『帯締め』
- ③『黒羽織』
- ④『紫羽織』
- ⑤『脇息(杉材製)』
- ⑥『被布(白花小紋)』
- ⑦『雨コート(黒地)』(尾道市所蔵)計7点
- ⑧故池田康子氏に林福江さんから
寄贈された「帯」も常設展示。



上記は、晩年1941年(昭和16年)8月の下落合の新居完成から1951年(昭和26年)6月28日没までの10年、実際に着用していた貴重な着物。

☆林芙美子旧居の展示は「3つのコーナー」にて分かれている。

林芙美子親子は、大正5年から11年にかけて尾道で借家暮らし、その内2年半(尋常小学校6年、女学校1.2年)を過ごした「林芙美子旧居跡」。当時1階は「宮地醤油店」。遺品の随所に鎌倉彫の素晴らしさが堪能出来る。

◎1つ目が旧居1階、『林芙美子の晩年の遺品』常設展示①(ガラスケース手前側)。

- ①【コト外】 ②【ハートナイフ】
- ③【ハコ皿(鎌倉彫)】 ④【印章箱】
- ⑤【吸取器】 ⑥【懐中時計(リトニ製)】
- ⑦【ハコ入】 ⑧【ハコ軸】
- ⑨【林芙美子から養子林泰宛 葉書】



昭和18年12月泰を養子に迎え、昭和19年3月、夫緑敏と泰を林家に入籍。

(尾道東高所蔵分)：計9点

2つ目が旧居1階、『林芙美子の晩年の遺品』常設展示②(ガラスケース奥側)

- ①【灰皿】 ②【眼鏡(加藤商店)】
- ③【卓上時計(ウチカ弘製)】 ④【万年筆(イト製)】
- ⑤【イノ壺】 ⑥【ハサミ】
- ⑦【切手盆】 ⑧【ハートナイフ(馬頭)】
- ⑨【ハートナイフ鞘入】 ⑩【印章「林氏」】
- ⑪【印章「林芙美子」】 ⑫【水差し】
- ⑬【手鏡一曲】



(尾道市所蔵)：計13点

◎3つ目が旧居2階、『林芙美子の晩年の愛用の遺品』常設展示コーナー。

- ①【文机】
- ②【座椅子】
- ③【座布団】
- ④【箱火鉢】
- ⑤【南部鉄瓶】
- ⑥【三面鏡】
- ⑦【双屏風(複製)】

(尾道市所蔵分)：計7点



☆現在、『林芙美子旧居』を文化庁に「登録文化財建造物」登録申請中。

以上